令和6年度 事務事業評価シート(1)

「令和5年度事務事業]

	_		~ 3 3 3 3 7	_			
一般会計		_	_		事務事業分類	A 一般事務事業	Ě
事務事業名	骨粗しょう症予防検診				事業番号	011-179	
担当部署名	健康福祉	局	健康	部	健康推	進	課

		!												
	I. 基本情報													
事	業の位置	付け												
	畑士甘士	施策との	有·無	戦略	(-) (-) (-)									
	堺市基本 計画	関連	有	取組の方向性	②生	活習慣病の	D発症予防	・重症化の	予防					
	2025	寄与する	有·無	指標名			_							
1		KPI 無 H		現状値	_		目標値							
1	IIII + 65.6	施策との	有·無	ゴール	ゴール(3)すべての人に健康と福祉		ターゲット		3.4					
	堺市SDGs 未来都市	関連	有	取組										
	計画	寄与する	有·無	指標名			_							
		KPI	無	現状値	_		目標値		_					
2	関連計画			さかい	健康プラン									
	事業開始	左库	A11 7 F	=										
3	事無用妇				平成 6 年度	只位	食対象年度		令和 7 年度	<u> </u>				
4			(別生)	健康均	曽進法、堺市骨粗しょう症予防検診事業	の実施に関	目する要綱							
事	・ は根拠法令、条例等) にはなるとは、外間は他のものは、例が大いの事業の失過に関する支持を 事業の概要													
Ť	事業の実施		/k											
5	(実施主体			本庁、	本庁、各区(保健センター)									
	事業の対象	 象		40451	N. L. S. M. T. C.				対象数	単位				
6	事業の対象 18歳以上の堺市民 18歳以上の堺市民								約700,000	人				
7	7 事業の目的 (事業実施によりめざす状態) 骨密度が低下すると些細なことで骨折することが多くなり、治療で寝たきりの状態になることが多い。 骨密度は20歳前後を境に低下していくため、若い世代(18歳時)より現状の骨密度を適切に把握し、健療につなげることで市民の健康の保持増進を図る。									健康指導·治				
8	事業内容 (目的を達成するための手段) ・各保健センターにおいて2か月に1回程度の検診日を設定し、市民が申し込みを行い骨密度の測定を実施。・検診結果に応じて保健師又は管理栄養士がその場で指導を行う。・自己負担金640円(市民税非課税世帯・生活保護世帯等の方は事前に保健センターへ申請すれば無料) ※スケジュール、実施方法・手段、事業規模・回数など													
	※国・府の施した内容				_									
9	主な支出先	(委託・補助	加金・負担金	等)										
10	公民連	連携・協	働事業											

II.事業目的の達成状況事業の成果や活動実績の測定

成果指標(目的の達成状況を測定)	*****										
8木16保(ロツの连231人心で別足)	H (77		美	績	目標	目標 点検対象年度					
	単位		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度					
		目標値	1,000	1,000	1,000	1,000					
診者数	人	実績値	760	785							
		達成率	76%	79%							
当該指標を選定した理由	骨密度	を適切に把握	し、健康指導・治療に	つなげることで市民の係	建康の保持増進を図る	。 ため。					
目標値の設定根拠・算出方法	令和元	令和元年度実績を基準とし、受診者数増加を目標とする。(延べ人数)									
活動化博(出用も上げてための手所)			実	績	目標						
5割拍倧(成未を上げるにめの子段)	半位		令和4年度	令和5年度	令和6年度						
		目標値	42	42	42						
骨粗しょう症予防検診の実施回数		実績値	41	42							
		達成率	98%	100%							
当該指標を選定した理由	検診受診の機会を適切に確保するため。										
目標値の設定根拠・算出方法	保健センターにおいて、2か月に1回の検診実施を目標とする。										
5	当該指標を選定した理由 目標値の設定根拠・算出方法 動指標(成果を上げるための手段) 組しょう症予防検診の実施回数 当該指標を選定した理由	当該指標を選定した理由 骨密度 目標値の設定根拠・算出方法 令和元 動指標(成果を上げるための手段) 単位 組しょう症予防検診の実施回数 回 当該指標を選定した理由 検診受	参者数 大 実績値 達成率 当該指標を選定した理由 骨密度を適切に把握 目標値の設定根拠・算出方法 令和元年度実績を基動指標(成果を上げるための手段) 動指標(成果を上げるための手段) 単位 目標値 実績値 達成率 到しよう症予防検診の実施回数 回 実績値 達成率 当該指標を選定した理由 検診受診の機会を適	参者数 人 実績値 760 選成率 76% 当該指標を選定した理由 骨密度を適切に把握し、健康指導・治療に 目標値の設定根拠・算出方法 令和元年度実績を基準とし、受診者数増加 動指標(成果を上げるための手段) 単位 実 目標値 42 実績値 41 達成率 98% 当該指標を選定した理由 検診受診の機会を適切に確保するため。	参者数 大 実績値 760 785	参者数 大 実績値 760 785 79% 79% 3 3 76% 79% 79% 9 3 1 2 2 2 2 2 2 42					

令和6年度 事務事業評価シート(2)

事務事業名 骨粗しょう症予防検診 911-179

	Ⅲ. 投入量													
事	事業コスト						※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。					を含む。	(単位:千円)	
		項目	f	う和3年	度	令和4年	度 令和5年度		5年度			令和6年度		
	- 現 日		決算			決算		当初予算			決算		当初予算	
	事	業費 (a)			1,598	1,143			1,370		1,068		3,252	
		国支出金			100		158		161			169		169
13	財	財府支出金							0					0
	源	市債							0					0
	内	その他 ()							0					0
	訳	受益者負担金(使用料、手数料等)							0					0
		一般財源			1,498		985		1,209			899		3,083
14	人	件費 (b)		2,960 2,960 2,950 2,950				2,950	2,930					
15		間経費(c)=(a)+(b)			4,558		4,103		4,320	4,320 4,018			6,182	
事	事業費の内訳												(単位	: 千円)
		項目	年	度	事業費	うち 一般財源		項	目		年	度	事業費	うち 一般財源
		±0.#W	R5	決算	0	0					R5	決算		
		幸民酉州	R6	予算	22	22					R6	予算		
	事	消耗品費	R5	決算	186	186					R5	決算		
16	業費		R6	予算	340	340					R6	予算		
10	内	印刷製本費	R5	決算	17	17					R5	決算		
	訳	中侧裘本貝	R6	予算	37	37					R6	予算		
		委託料	R5	決算	832	663					R5	決算		
		女市し作	R6	予算	0	0					R6	予算		
		その他使用料及び賃借料	R5	決算	33	33					R5	決算		
		このでは日本	R6	予算	2,853	2,684					R6	予算		

IV. 事業の効率性

単位当たり経費

Ŧ	143	い、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一			
		区分	単位	令和4年度	令和5年度
	1	受診者数	人	760	785
17	2	上記①にかかる年間経費	千円	4,103	4,018
	3	単位当たり経費 (②÷①×1,000円)	円/単位	5,399	5,119

備考 (算出についての説明等)

V. 評価

費用対効果に係る所見

各種感染症の感染対策を行った上で、通年検診を実施した。

18 R3年度以降、受診者数は増加傾向であり、市民の骨粗しょう症に対する関心が高まっている。

R5年度は前年度と比較して受診者数が増加し、単位当たり経費は前年度より減少しており、効率的に事業に取り組むことができたと評価する。

KPI等への寄与(基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか)

検診体制を整備し、各区で通年検診を実施できている。

大診時には、骨密度測定の結果を踏まえ、保健師又は管理栄養士などの専門職が生活習慣等に関する健康相談や生活指導を行っている。市民が自身の骨密度の現状を把握し、必要な指導や治療を受けられる環境を確保することによって、堺市基本計画2025の「健康で長生きできる都市の実現」に寄与している。